

第3回公共施設の整備に関する検討委員会会議録

1. 日 時 平成26年8月22日（金）午後2時～午後4時
2. 場 所 市役所第1庁舎会議室
3. 出席者 （委員）花井委員長、原副委員長、小松委員、船橋委員、出口委員、
諏訪村委員、杉山委員、須藤委員、藤間委員、中田委員、田中委員、
内藤委員 以上12名
（市側）経営企画部次長、同総務課長、同施設企画室長

4. 会議内容

（1）開会

（事務局）

定刻になりましたので、ただ今より第3回公共施設の整備に関する検討委員会始めます。開会にあたりまして委員長からご挨拶をお願いいたします。

（花井委員長）

みなさん、こんにちは。熱海に来ましてまた暑いなとびっくりしていますが、今日も傍聴席の方も毎回のようたくさんお見えになってありがとうございます。前はPFIの勉強会、また新しい図書館、新しい考え方というような勉強会をさせてもらいまして、みなさんのご意見がなかなか細部までいかなかったのかなと思いますけど、今日はたつぷりと皆さんのご意見を聞きながらホールに関しても、いろいろやっていきたいなと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

（2）（仮称）熱海フォーラム整備事業基本構想（素案）について

①施設用途

《主要施設について》

（花井委員長）

今も申し上げましたが、前は勉強会という色が強かったですが、図書館を中心にした話が多かったので、今回は皆さん、ご承知のように市民ホールをまず議題にしたいと思っております。平成24年に観光会館が解体され、ホール機能が今なくなって、それが必要という意見が僕たちもリサーチしていても数々出てきます。アンケート調査にも前回お渡しした資料10にも出てきております。それに附随する資料9-1～9-4、いろいろなホールのあり方がございます。この市民ホールの形状、どういう使い方が良いのかというのを、皆さんに工夫も含めて、ご意見を聞かせて頂ければなと思います。順番で申し訳ないが、委員からホールについてご意見聞かせてください。

（委員）

今日はやっと、熱海市民念願のホールの話になりました。8月13日に副市長や市の職員の方々と音楽連盟、また藤曲市議と私も同席し、その席でやはり図書館のことが多く語られているということで提議もございました。またホールに関して話が2回目のときも全然ないということで、熱海市民の多くの方々が図書館を建てるのですか、ホール、イベントホール、そういうものを建てるのではないのですかというご質問も他の方や私にも随分ございました。音楽連盟の方7名と藤曲市議とみなさんでいろいろな提言・助言・苦

言でございました。そして署名をしましたときに熱海市民は今4万人もおりません。その中で1万何千人の方がホールに関して署名してくださいました。ぜひともいいホールを作っていたきたいという事で。そのお願いやいろいろなことで、13日に会合開かれました。そんなに大きなものは場所的にないので、コンパクトでもきちんとした設備のあるホールを作ってほしいというのが、まず熱海市民の多くの方の願いです。それに附随して図書館もあり、展示場もあり。ホールに関していろいろなご意見がございます。アンケートにも大きい方がいい、小さい方がいいといろいろございますが、とりあえず大きいにしても小さいにしてもきちんとした形で。そして大きければ、この間も申し上げたように、市外の方たちを呼んでいろいろな催しができます。そして誘客にもつながります。熱海市の活性にもつながりますので、ぜひともいいホールを作っていたきたいというのが、わたしも1万何千人の署名の気持ちでございます。どうぞそれを受け止めてください。図書館も大事です。子どもたちのためにも大人の方にも本がほしい、いい図書館、いい場所が欲しいのはわかりますが、第一の希望はとにかくホールがほしい、展示場がほしい、会議場がほしい、いろいろな複合的に使える場所がほしいということが願いでございました。どうぞそれをしっかりと受け止めていただきたいと思います。

(委員)

まず、音楽ホールと展示ホール。ホールという言葉だけだと、ちょっと明確に分かりにくいので、この会議でなにか使い方を明確に分けられるようなことをやらないと少しあやういのかなと思います。前回の委員会で、委員長から素晴らしいプレゼンを伺いまして、1か月ずっと考えていましたが、前回の会議の後に、可動式の椅子にするか、固定式の椅子にするのか、という話が出た時に、図書館というのは委員長からのプレゼンテーションではどこでもいつでも誰でも、自由に作ろうと思えば作れるものであると。でもその形が必ずしも型にはまったものでなくていいということであれば、例えばエントランスに、例えば書架を設けてですね、ホールでくつろぎながら皆さんに本を読んでいただくような使い方はひとつじゃないかなと。これは必ずしも共存共栄できない話ではないと思いますので、もう少し自由な視点で向き合うと素敵な形が作れるのではないかと考えます。

(花井委員長)

今のことで呼び名ですね、音楽ホールと展示ホールというふうに、とりあえず分けた方がいいですか。その辺どうでしょうか。

(委員)

結局最終的には複合施設的なものですよ。いろいろなことに使えるっていう場所もほしいわけですから。観光会館ホールというわけではないので、私もそれを今回発言するときにどうしたものかと思いましたが、とりあえず建物としてホールという形と呼んでおりますが、最終的にはいろいろ使いますから、一つの場所も、平面的なところはいろいろな形で使うようになった方がいいと思います。一つに固定しないで。ですから複合的な会館みたいな形になるのではないかとはいいますが。良い呼び名が。

(花井委員長)

まだわからない。じゃあ補足を入れていただきながら、ホールという言葉を使っていたらいいかなと思います。少しホールと単体で言ってしまうと迷ってしまう。

(委員)

出来あがった後に「ホールと言ったじゃないですか」という誤解が怖いと思うので、やはり最終的に複合施設、それがホールという呼び名であったとしても、いまこの会議で何について話しているのか明確にする必要があるので、例えば展示スペース、ホールという意味合いを含めて、展示スペースなら展示スペース、音楽のホールならホールという言葉、音楽としてのホールと使うとかですね、明確にしていた方が最終的に提言を出すときに誤解がないのではないかと感じております。

(委員)

音楽ホール、展示ホールに関してですが、やっぱり音楽ホールの方は、音響などの設備がやっぱりすごく重要になってきますので。いろいろなものに使うっていうところと、きちんとしたものを作るっていうところを、何を企画していったら、どういったものを作るかというのを明確にしていけないといけないと思っています。音楽ホールであれば必ずどういったイベントがあるのか、そういうことを企画する方が必要になると思います。それをどこまで、大きなホールを作るのがいいのですが、それが年に1,2回しか使わないのはもったいないので、どれくらいの規模のものをつくれば、ちゃんとした企画をして月に何回か3、4回、最低でも4回でも、使っていただけるようにしないともったいないという気持ちが強いです。

(委員)

市民ホールについての意見ですが、以前観光会館があつて、それは固定式で利用回数を調べると年間で90回程度。1回使うとしても、当然何かをやったとしても、1日中使うわけでもなく、一定の時間を使うことになると思います。これが施設としてかなり魅力あるものが熱海市にできたとしても、飛躍的に稼働率が上がるとはちょっと考えていません。ですから、特化したものではなくて、多目的に利用できるような、事例でもあるような可動式といったようなものの方が良いのではないかと考えています。規模ですが、両隣小田原市、沼津市、中核市に挟まれた地理的条件もありますので、熱海でホールができれば、そういった有名な方、お客さんが来るかっていうのは不透明で、よく言われるのはそういうものを作ると観光客とセットでという話もありますが、基本的には熱海市に来られる方は、遠くから来る方もいらっしゃいますが、東京近郊の方がほとんどで、東京にもそういった施設多くありますし、そういった面からも大きなものを作ったとしても利用率は上がらないと考えています。過去の観光会館の利用状況を見ると、大きくても300人以下のものにすべきではないかと考えています。

(委員)

ホールと言いましても大きく展示系で使うものと、音楽、発表会で芸術に使うものと2つあると思いますが、利用の仕方を考えると本来2つ作るのが理想的かと思っています。ただしそもそもの総面積に制約があつて、2つは作れないという事であれば、両方に使えるものということで、可動式という折衷案みたいなものになっていくのかと思われるのですが、ただ可動式にした場合は、どちらにも使えるということで例えば音楽系で使う場合は音響設備ですとか、そういったものが悪くなってしまうのではないかと心配もありますし、展示系のものに使う場合は、パネルのようなものの飾りやすさ、そういう使い勝手の良さ

悪しが悪くなるのではないかという心配が出て来ると思いますので、私の意見としては可動式の方がよろしいのではないかと思います。どちらにも使えるような。ただどちらにも使えるという事は、中途半端になりがちですので課題がでてきて、それをいかに悪い点を減らしていけるかというところのが、これからの課題になるかと思います。現在の建築レベルで、そういったものがかなり軽減できるのであれば可動式で、両方使いまわせるというのが熱海では良いのではないかと個人的には思っています。

(委員)

私も他都市に勝る立派な施設があれば、豪華なホールですとか立派な展示設備の整った展示施設があったらいいなと思いますが、やはり人口減少ですとか、旧観光会館の稼働状況、近隣市町の同じような施設、維持管理費、このようなことを踏まえますと、本当に必要で有効に活用出来て無理なく維持できる、このあたりが熱海で持つべきホール施設ではないかと考えています。まずそのうえでホールについてですが、前回か前々回の資料で9-4というのがありましたけれど、まさにそれにあるような客席だけでなく、舞台も含めた平土間可動式。9-4の図の左の上の方にありますが幕とか照明類、演劇に必要な吊りもの、それから音楽に必要な反響板、これらを備えたホールで演劇、音楽、それから大規模な集会に耐えられるもの。加えて右の絵ですが大型の自動式の可動式展示パネル。これを備えることで、展示にも耐えられるのではないかと考えています。あとわがままを言えば、これに熱海でも消費生活展ですとか、福祉まつり、健康まつり、そのような市民向けのイベントも行われています。あと、確定申告ですとか、税金や年金、介護に関する相談会、あるいは消費者被害の防止ですとか環境保護。こういったものの啓発事業、場合によっては、選挙の投開票とか、市民生活に密着した行事が行える。そして災害時には一時避難や帰宅困難者の収容にも役立つ、こういったロビーを備えていることによって、より多様な使い方が出来るのではないのかと思っています。ただロビーで行うような日常のにぎわい、気軽さとコンサートなどホールで行う格調高いイベントの雰囲気の違い、これをどのように併存させるか共存させるかは、運用上の、またものを作るときもそうですが、設備に課題は残るのかなという気はしています。

(委員)

ホールはこの写真を見ると本当に立派な1,205人ですか、良いなと思いました。私も実はいっぱいにするイベントがそうあるとは思えないので、どうしても多目的ホールのようなものが良いかなと思ってしまいます。しかしみなさんお話しているように、私たちの読み聞かせの会でも、このことを検討させて頂きましたが、多目的ホールでは、音楽の音響設備の方が心配だという声があがっていましたが、そのあたりはなにかいい方法があれば多目的ホールが良いのではないかと考えています。私どもの会でも年に1回起雲閣の音楽サロンを使って、今年も100人以上の集まりの催し物をしましたが、私たちは音楽サロンで十分ですが、やはり他に使いたい方たちの意見もありますので、多目的ホールで皆さんの意見がまとまると、取り入れた意見になると良いなと思っております。

(委員)

前回お休みをいただいたので、資料などを見てどんなお話があったのか資料の中だけで頭の中で噛み砕いたのですが。私も熱海の人口だとかそういったものを考えてホールなど

は大きな立派なものよりも、いろいろなものに対応するものの方が市民も使い勝手がいいのかなと思っています。花井委員長のテラソのパワーポイントを見て、図書館とはちょっとイメージが違った感じで、とても子どもたちの興味が沸くのではないかと思いました。図書館なら図書館、ホールならホールという、堅苦しい考えを持たなくてもいいのではないかと思いました。この間子どもを図書館に連れて行ったのですが、いろいろイベントをされています。読み聞かせだったり、夏休みだったら、自由研究の題材を使って、子どもたちにちょっとした実験を見せて。今は図書館の職員さんたちでやられていますが、それを多目的ホールがあれば、もう少し有名な人を呼んでみたりということもできるのではないかと思って、パワーポイントの資料はとても夢が広がったというか、これから子どもたちにとって良い施設が出来るのではないかなと思いました。

(委員)

あの資料9-1、ホールの床構造の使用の違いによるメリット、デメリットというところが載っていますが、これを読むとどっちもどっちというふうに捉えてしまっていますが、やはりコンパクトなまちの中で多目的に使わざるを得ないのかなという感想が個人的にはあります。ただし本当にわがままになってしまっていますが、多目的かつ質の良い仕様、質の良い音響、こういったものを望めればいいかなと。もう一点は最近、全国各地で非常に自然災害が多いのですが、熱海市内にも学校をはじめとして避難場所ございますが、仮に多目的室が可動式で、そのような避難場所の代わりになるようなものであれば、中央部にもこういった広いスペースがあればいいなという思いもありました。よく観光地で、防災は最大のおもてなしという言葉がありますが、まさにそれを実現できればいいなという思いからこういうことを述べさせていただきました。

(委員)

前回の会議で、このホールのお話をさせていただいたわけですが、市民アンケートでは600ということで、前の観光会館と同規模の席数がほしいという意見が多かったようです。それからこの中で委員の皆さんの意見では150~500あればいいのではないかということだと思いましたが、最大でも500あればよろしいと思います。その時にもお話しさせていただきましたが、ホールをいわゆる貸館で受け身で待っているのか、それとも積極的にそれを活用して音楽コンサートをするとか、自主事業、収益事業に展開していくのかということ。そのどちらかによって、いわゆる望ましい形が決まってくるのではないかなと思います。PFIとかこれから管理運営の部分の中で誰がどういうふうに運用していく中で、当然収益を図っていかなければならない。貸館のみの使用料だけ頂くのではなくて、積極的にもっと活用して収益をあげていくというふうになれば、自ずとグレードの高い固定席だとかそういった形になると思いますが、今後管理運営計画が出てくると思いますので、そのあたりが重要になってくると思います。私個人としてはグレードの高い椅子、音響、こういう設備を整えて頂きたいと思います。先に頂いてあります、多目的ホールで可動式の舞台形式を見ましても椅子や音響もよさそうな印象で、実際に行っていないので分かりませんが、最近はグレードが高くなっているなという感じはします。それによって可動式でもグレードを保てればそれでもいいのではないかと思っております。今日はいわゆるホールのお話の中でやっておりますが、管理運営については 地域との連携という部分

と地域経済の活性化にどう寄与するのかという観点からも考えて取り組んでいかなければならないと思いますので、そのあたりを踏まえて、形状が決まっていけばと思います。

(委員)

皆さんの話を伺って、非常に多機能のというのが多かったと思いますので、議論させるためにも、逆の考え方で話をしたいと思います。というのはこの観光会館がなくなったときには、非常にきちんとしたホールを作ってほしいという願いがかなりあったと思います。内容的には委員がおっしゃったように、音響設備も整っているし、それから先ほど言った過去のアンケートは比較にならないと思っています。というのは今までの観光会館の設備だったからできなかったと思います。きちんとしたものを持てば熱海市民の方々は文化的にも非常に高い方が多いと思います。だから利用頻度も上がってくると思いますし、上がっていくように運営していかなければならないと思います。だからそのところを投げかけをしたいのですが、それともう一つ、多機能のものが一つでなければならないのか。先ほども言ったように、用途に応じてきちんとした音響設備というのが出ましたが 前日も申しあげましたが、たまたま熱海に縁のある舞踊関係の有名な方お話ししたのですが、ホールがきちんとしてきて、バックヤードも出来れば、ぜひ熱海でやりたいという話が出ていました。ところが今話を聞いていると、どれにでも利用できる、どっちつかずになってしまうのではないかと思います。ですからここで皆さんとお話したいのは、このあと絵が出てきますが、建築面積が何階建てになるのであれば、予算が許すのであればきちんとしたホールを作りたいのと、もう一つは先ほども言った多機能の会議室。会議が出来たり、展示が出来たり、そういう可動式のものが、小さいものでいいですからあってもいいのかなと思います。そのあたりについては委員と同じように運営面で対応できないのかなと思います。ここで初めから、聞いているとどうも100人から300人ぐらいのということが非常に強いのかなと思います。これはよく分かります。後々に禍根を残す、また負担をそっちにということもあるのですが、そのためにPFIを使って市民の負担を少なくしようという事でお話していると思いますので、そのあたりを含めて考えていったらいかがかなと思います。

(花井委員長)

ありがとうございます。一通りみなさんにご意見いただきました。投げかけとして逆の意見も出して頂きました。その中で一つ多機能といっても何をしたいのか、音楽ホールといってもどんな音楽。音楽もジャンルもいっぱいあると思います。そういうものを考えながら、どういう事をしていからこの大きさだ、という考え方も一つあるのかと。その中で多機能なのか、別々なのか、1つなのか、2つなのか。出てくるかと思しますので、ご意見いかがですか。

(委員)

ホールというのは、これは大ホール1つのことで、今皆さん何となくお話ししているのですが、大ホールではなくても、中ホールもしくは小ホール、1つの方を平床にして、それは可動式でもいいと思います。それでプロの方たちは可動式、移動式の椅子は嫌がります。異音が出ます。私たち素人には分かりませんが、プロの方たちが言うのは、ちょっとした動きの中に異音が出るということです。ですから、きちんとしたホールであれば移動しな

い、固定された椅子でやってほしい。それでももちろん音響も。私思いますのに、それはそれで作って場所と予算があるなら、もう1つそれより小さめの、それを多目的ホールという形にはできないでしょうか。2つそういう形式であれば。稼働率はどこを探しても100%のところはないです。先ほど委員がおっしゃったように、熱海市の観光会館があまりに古く設備もないために、音響もないために皆さんが使わなかったですが、コンパクトでもきちんとした音響設備があれば呼ぶことは可能になります。そして伊東市の観光会館でも年間5千万円近く市から出ています。そして三島市の文化会館でも1億円近く出ております。そして現在の図書館のそのぐらいの金額は今あちらで使っています。もしこの建物を作ることによって図書館が入れる位置があって、そうなれば今の図書館はアンケートにあるように、段が多くてとても見にくいと皆さま言っています。ここへ来た場合は平床みたいになりますので、人件費が少なくなります。図書館の人件費でも6千万円近く出ています。そういうことで少しずつ削減したものがホールの方に。とにかく稼働率は、東京の大きなホールでも100%なんてことはまずございません。田舎になればなるほど、外部から呼ばなければ稼働率は稼げないと思います。ただきちんとしたホールがあれば、小・中学生の音楽発表会をマリンホールでやっておりますが、そういうのをご覧になったことないと思います。観光会館でやっていたものがなくなって、マリンホールで今やっていますが、やっとなら、台に後ろの子どもたちが乗っています。最初はみなさんが座っているよりももっとひどい、普通の折り畳みの椅子に後ろの子どもたちは乗って、それで一生懸命歌っていました。私たちの生徒たちも、なんであんな椅子なの？椅子に乗って大きな声で精一杯歌うなんて無理だよって言う事を言っていました。子どもたちの将来を考えたら、まず原点から考えて素晴らしい会場で、素晴らしいものを与えてあげなければいけないと思います。大人たちも現在熱望しているのがホール。ですから多目的1つにこだわらずに、普通のホールを使いながら、もう1つ多目的のものを作れないものかと思います。その多目的に使える方も、一応音響設備もきちっとしていればいろいろな面で使えると思います。パーティにしても、音楽の関係でも小さくても使いたいというのが出てくると思います。そして移動式の天井から吊るすパネルをきちっと設置すれば、今度展示の方にも使えると思います。ですから部屋割りも小さくも大きくも使えるようになると思います。何も1つに限らず階があつたり、予算があれば普通の大ホールと皆さんが多目的にいろいろ使えるホールというものがあつたら、なおいいいのではないかと思います。

(委員)

今のお話に関連して、伺いながら記憶をたどると旧観光会館、非常に造りは完成度が高かったのではないかと。上がホールで、下が展示スペースになっている。今回もそういうような形で共存するような方向を模索してみる。その展示スペースにおいても、可動式の椅子を用意して、音響を整えれば、展示にもミニコンサートにも対応していけるのではないかと思います。例えば、伊東の観光会館ももう老朽化しているはずで、湯河原も例に及ばずです。そうすると、例えば近隣市町村を巻き込んで、名前を共同で掲げる。これは難しいかもしれないですが、例えば伊東市、湯河原町とか、共同の名前を掲げてそれぞれに費用を負担していただいてPFIなど手法を入れて、共同で管理していくというのも模索していくとおもしろいかなと思います。そもそも論ですが、先ほど副委員長からお話が

あった稼働率の話というのは納得がいくと思います。確かに終盤、1回目の資料5、平成18年から22年の利用状況の報告ですので、副委員長がおっしゃるように施設がくたびれてきて、その中でやはり納得がいかないのが選ばれなかったというのを鑑みると、こういう数値が出ているというのは非常に参考になると思います。この中でも市外からの利用者の数も載っていますので、今後市として、どうプロモーションを行っていくかというのが大きなポイントになっていくのではないかと。少子高齢化の問題、人口の問題が出ましたが、これもそもそも市としての方向性がどうあるか。例えば近隣でいえば、函南町であったり、長泉町は人口を伸ばしているという背景もありますので、熱海市としてやはり今後まちづくりをどういうプランを持っていくか。人口をどう伸ばしていくのか。それとも、今までどおり守りに入ってこのまま現状維持に努めるのか。そういった方向性をひとつ鑑みて、どういったまちにしていきたいのか。全体的な議論になってくるのですが、必要なのではないかと思います。

(委員)

もし仮に600人という規模で、きちんとしたホールを作るとすると、今この町の真ん中にそれで効率が良いのかなとちょっと思うところがあります。本当に他の市町村からもたくさんの方に来て頂くような形の大きなホールであると、私の田舎でも随分前ですが、やはり開発されていない場所に作るパターンの方が多くて、今周りにまちが出来上がってしまったところに作って、そこへ人をさらに集めてくるというのはどうなのかと思います。

(花井委員長)

他にどうでしょうか？前回は600人だったところで始まっている数字だと思いますが、仮にそれがこの後また議論お願いしたいのですが、駐車場の問題もあると思います。ちょっと委員に聞いてみたいのですが、600人を呼ぼうとするような企画、前もされていたと思いますが、その内容を少し教えていただけますか。

(委員)

私は書道ですので展示です。あと文化団体が重要になっております。そこに傘下として音楽連盟とか、いろいろあるわけですね。音楽連盟さん、今日も傍聴に来ておりますが、プロの方たちが入っております。もちろん書道でも何でもプロが入っておりますが、使いやすさということを考えますと、その方たちがあちこち使っているから一番分かるわけですね。そして函南町でも700人ですね、収容人数。そして長泉の方は小さいですが。アンケートを見ますと、1,000人とか小さいので2~300人、また大きいところで1,000人以上が多かったです。数字的にはこの市民のアンケートを見ますと、1,000人くらいというのは非常に多かったです。ですが1,000人は先々のこととか場所の大きさのことも見てちょっと無理かなと思います。使い勝手に言いますと、皆さん思うよりも使っていないかもしれません。でも良い設備になれば、先ほど委員もおっしゃっていたように、呼び込めると思います。音楽は音楽の方たちで舞踊は舞踊の方で。三島市などを見ますと、バレエの発表会、ピアノの発表会だとか、いろいろ多目的に幼稚園の発表会でも使っています。熱海はそういう設備がきちとないから、あまりやっていないだけで、他の施設を見ますと舞台を呼んだり歌手を呼んだり。いろいろなコンサートとか。また大きな会議にも使っています。そういうことで大ホールを使うようにして少しでも稼働するよ

うに皆さんがあちこちに呼びかけをしたらどうかと思います。ただ多目的は部屋がいくつも分かれるようにもなりますし、平床で作れば椅子もどうにもなります。ただ皆さんが願っているのはコンパクトでもいいから、きちっとした設備があるホールをということです。そうすれば遠くの立派な方たちを呼んで、回数を作れると思います。観光会館は本当にひどかったです。だから呼べませんでした。ですから今回良い会場をできれば、もっともってお客さんというよりも舞台をやる方たちも呼べると思います。あとは学生たちも、なにも学校の体育館でいろいろな行事をやっておりますが、そういうことやらないで立派な設備があれば、どんどん使わせてあげたいと思います。そうして回数を作れば相当な稼働率になると思います。ですが稼働率だけに絞られますと100%ではないということだけは、どこの会場を見てもそうです。ですからその点だけは頭に入れ、とにかくみなさんが熱海市民も、市の方も、いろんな活動なされている方が利用したり、また外部の方にお声掛けしたり、市の方もいろいろネットやなんかを使って、熱海市にもいい場所があるということをお伝えれば、昔の観光会館よりももっと使う方ができると思います。

(花井委員長)

稼働率の話ですが、基本的に最初は多目的が多かったのです。多分おっしゃったようにホールが1つのホールという。今2つだったらという話も出て、新しいアイデアになっていると思いますが、委員はどうでしょうか。

(委員)

先ほど委員がおっしゃっていたように、最初の話で、みんなが集まる場を作るということで話が進んでいたと思います。それがまちの中心部にあれば熱海市の人たちにとって、いいものになるのではないかという話で進んでいって。実際に委員もおっしゃっていたように、私自身もちょっと習い事をしていまして、発表の場がやはりないです。観光会館がなくなって近隣湯河原町もやはり。発表というと南足柄市まで行っています。そちらの方では大ホールと小ホールがあって、人数によって対応できるようになっています。音響設備も整っています。娘もエレクトーンやっていますが、エレクトーンの発表や詩吟のコンクールがあったり、オーケストラを呼んで音楽会をしている施設です。そういった施設はほしいとは思いますが、やはりまちの中心部に、最初の話でいうみんなが集う、集まる場というところではちょっとかけ離れてしまうかと思いつつ、どっちつかずの意見で申し訳ないですが。あったらあったでいいですが。今熱海市は空いているマンションとか結構たくさんあります。使っていない場所、そういったところも市で上手く活用出来て、皆さんが言っている意見をそういった場所で活用出来たら、なおかつ熱海のまちづくりになるのではないかと思います。

(委員)

私は、もう最終的には現実的な着地点を探すことになってしまおうと思います。それが前回ご説明頂いたライフサイクルコスト、そこに稼働率も関わってくると思います。委員からも他市町のお話が出ましたけれど、もう少し他のまちでやっているPFIですとか、例をもう少し検証して、着地点は要するにコストになると思うので、それをやってくれる人がいないとどうにもならないところになります。どんどん現実的な話になってしましますが、そこにいかざるを得ないのかなと思います。

(委員)

大小のホールが出来ればこれは最高で、自分たちの希望であるのですが、過去にどんなコンサートとか使われ方の話が出ましたけど、最後に大きかったのは、平成19年市政70周年でNHKのきんとくという音楽のコンサートをやりました。美川憲一さんや長山洋子さんが来ました。そのときに600人。前の会館ほぼ満員になりましたが、プロデューサーが「この会場は小さいけど、お客さんと歌手が接近してすごく身近に感じていいコンサートが出来る」と、こんなふうに言っていました。600人は小さいのかと私は思いましたが、そういう中でやはり人数だけではなく臨場感とかそういうもっていき方によって、ホールが生きるかどうか。そのときは音響が悪かったので、当然NHKですのでスピーカーを増強しまして、かなりいい音響にもっていきましたが、初めからそういうものが備わっていれば、使い勝手はいいのではないかなと思います。PFIがフルに発揮して民間の資金がそこに投入されていけば、大小のホールを作って頂いて、大ホールは固定式のグレードの高い椅子等、音響がしっかり整っていると。可動式の部分、小ホールには、展示のスペースに使ったり、また小さなコンサートとか何か催しに使えばこれは最高だと思います。この後のやはり管理運営の計画と相まっていけば、皆さんもきっといっぱいほしいと思っています。出来る限りのものがほしいと思っていますが、あの敷地のスペースと全体の中で考えていかなければならないと思います。

(花井委員長)

議論は尽きないと思いますが、今おっしゃったようにPFI、その中のLCCの問題。そこがどう重なってくるか、話し合っていかななくてはいけない。その中で規模の調整も図るのかなと思います。またもう少し議論をして、どういうふうにするかも、これからどんどん分かっていけば、また着地点は出るのかなと思います。次のことを言うのは早いかもしれませんが、次は構想案を出させてもらうようになっていくと思いますが、それに対して今まで話してきた図書館の話、今日のホールの話、また展示のスペースの話、いろいろなギャラリーとか会議室とか、いろいろ意見が出ていたと思いますが、その中で振り返りも含めて、具体的にこれがあると便利ではないか。図書館とホールというのはメインに出てきていますが、そこにホールと合わせて、こういうものがあつたらいいなというのがあればお聞かせください。

(委員)

先ほど2つあればいいということの1つのほうですが、たとえば熱海には映画館もないです。ですから学生も子どもも、幼児も大人もみんな沼津、三島、小田原、辻堂に行っております。ですからその中ホールみたいなものがあればあるときは映画館になってみたり、またコンサート会場になってみたり、またパーティ会場になってみたり、会議場になってみたり、いろいろ多目的な事に使えるのではないかと思います。固定式と移動できる会場があれば、このうえなく本当に素晴らしいもの出来ると思いますが、その移動式の方もあればそういうふういろんなことに使えます。周りにも映画館はないから他の土地に行っていると思います。映画だけでなく、コンサートにしても舞台にしても、小さくてもできる場所があれば。また大きい会場がほしいのであれば大きいホールを使う、小さい会場でもいいなら小さいホール、多目的な会場を使うというのが出来ると思います。映画とか、子

どもたちの発表会。私の孫もバレエの発表会が熱海では出来ないという事で三島や沼津、小田原の市民会館を借りたりしております。そういう子どもたちが全部熱海に呼び込めるわけです。ですから発表会すべて、ミニパーティーみたいなもそういうところで出来ると思います。もしくは椅子を並び変えて、会議場にも出来ると思います。現在はホテルで展示に関しては全然できないです。ホテルではまずパネルがないです。会場を貸してくださるところはたくさんありました。小さな美術、押し花のような小さな額でしたらいいのですが、書道みたいに小さいものではなくて、大きくなりますと重みもありますし、やたらに廊下にくぎを刺すことはできないので。ほとんどのホテルでパネルはありませんでした。ですからホテルは全然使えなかったです。それで今日まで使用してこなかったです。展示に関してはまずパネルと壁面が美しくなければ展示しても意味がないです。また反対に発表の部門は、音響がよくなければただホテルを使うわけにはいきませんでした。それで今日まであちらこちらを使って日延ばししてきました。ですから小さな会場、大きな会場、ぜひ今回なんとか作っていただければ映画館でもなんにでも発表会でも会議場でも使えると思いますので、ぜひその2つの案をできるようになるといいなと思っています。

(委員)

その他施設設備という事で、映画館というのはすごく面白いなど。私もアンケートに書かせていただいたということもありますので、すごく望むところですが、おそらくここで議論にあがっていたカフェの話もありましたのでどう考えていくか。カフェに関しては、固定で店舗系のようなスペースを作ってしまうと、営業形態が悪いとか、何かしらの問題で抜けてしまったときに、またみじめなスペースとして残ってしまう恐れもあると思います。でもPFIの場合は管理は違うところになりますので、そのあたりの心配はないのかなと思います。むしろそういうカフェであれば、地元との競合とかも考えると、カフェが出店できそうなブースっぽいものを用意しておいて、イベントに合わせてそのときだけ来てもらうとか、継続してそこでコーヒーショップ出したいという人が、気軽に出せるようなそういったスペース的なものと考えていく程度でいいのではないのかなと思います。例えば参議院の議員会館の地下1階にタリーズのコーヒーショップが入っていますが、そこは本当にそのカフェとして開いているのではなくて、ただ広い廊下にイスが並べてあって、タリーズ自体はワゴン車みたいなもので、少しオシャレなものですけど、それがロビーにぽつんと置いてあって、そういう中で営業している。そういうのが簡単な形式のカフェっていうものの方がいいのかなと。あと災害時のことも考えると、観光のこともそうですけれども、インターネット環境、WiFi、これは必須だと思っていますので、こういったところも力を入れていかないといけないと思っています。

(委員)

私は最初この土地を見たときに、やはり公園だったらいいなと思いました。市役所のすぐ脇ですし、市の中心になりますし、商店も結構ありますので、そこに図書館、ホールというお話があったので、イメージしているものは公園がベースにあって図書館とホールがついている、文化の中心になれるものというイメージでおります。

(委員)

民間施設についてですが、何が必要かというのは現実的なものは思いついてないのが正

直なところでは、現実を考えないで言えば、例えば雇用を生み出すような企業等が入っていただければ人口の流入もあるでしょうし、そういうものがあればいいと思います。あとは公共なのか民間なのか分からないですが、子育て家庭が子どもの居場所、遊び場、この周辺は少ないという声を聞いています。ここに例えば立体的な遊具とか、遊べるようなもの、室内のものが入れればなど。稼働率のこともありましたが、市民ホールも図書館もそうですが、正直、市民全員が使うかというを使う側からすると、使わない方も当然多いと。使う方の意見が主となってくると思いますが、子育て世帯のために使えるようなものが決められればなどと思っています。

(委員)

先ほどのホールの話で、思い出したことがあります。近隣の小田原市に、そちらの方が先行しているホールがありまして、確か城下町ホールという名前だったと思いますが、2、3年後にオープンが決まっています、そちらの方が当然人口も規模も多いですから、少し大きめのホールを作る予定だったと思いますが、ホールの単館で、やはり音楽系で使えるホールと、展示で使えるところと、もうひとつ中ホール位の計画だったと思いますが、そういうものが、すでに先行していて2、3年後にオープンの予定だったと思います。それを考えると、近隣からお客さんと呼んでくると考えた場合に、小田原ではなく熱海に来てもらう、熱海を選んでもらうというのを考えると、いろいろな意味で被らないようなものを作らないと小田原のほうに行ってしまうお客様も当然いるのではないかと思います。東京から来るお客さんを考えると、小田原と熱海とどちらも新幹線で来られるところですし、小田原はお城のすぐそばで駅から歩いていけるところです。そういったところも考え合わせて小田原に負けないような、競合しないようなものを作らないと、ちょうどオープン時期も重なってしまうので、あれっというところがお話を聞いていて思い起こしました。

(委員)

その他の施設についてですが、だいたい資料10のアンケートで思っているようなものは入っていたので、そこでよろしいかと思います。

(委員)

実は第1回目した後で、前回第2回目のときはほとんど話をする時間がなかったので説明できなかったのですが、熱海読み聞かせの会は小さな会ですので、どんな図書館にしたいかということで独自のアンケートを取りました。それは各小中学校の読み聞かせのボランティア、学校司書の方、図書館ボランティアにとりましたが、私が今からこの後もお話する中には、その意見を踏まえたことが数多く入ると思いますので宜しくお願いします。その他の施設という事ですが、沼津のふれあい交流室によく行きます。そこは室内公園があるそうです。いつもフリースペースで会議室を利用しているので、そこには行ったことがないのですが、とてもここの建物自体が使いやすいところでした。熱海には公園が少なく、子どもたちが集まる場所がなかなか難しいです。観光客もいっぱいいるというところで、子どもたちだけで行かせるにも、広い道路があるので難しいというのをいつも感じています。建物の中にある室内公園ですと、雨の日も使えるので、そのような使い方もここに。福祉施設の中の一環として入るのも良いかなと思いました。それから私たちの会で考えて、観光トイレが良いのではないかと案が出ました。大概どんなドライブインでもどんな

ところでも観光会館でもどうも使いにくくて、イメージが悪かったですが、観光トイレ、どんなというとはよくわかりませんが、仲間が新宿ルミネに行ったら、素敵なトイレがあったという情報を教えてくれました。そこの新しい複合施設には素晴らしいトイレがあるというのが、ちょっと目玉になっていいかなと思ったので、施設の中の一つとしてちょっとみんなが行きたくなるのではないですかね。特に人の集まりやすい施設なので、そういうところも考えてみたらどうかと思いました。

(委員)

委員がおっしゃっていたように、施設の外に公園があると景観もいいのではないかと思います。そこで子ども達も遊べて、ベンチにお年寄りが腰かけられて、さらに簡易的なワゴンのカフェというか、こういうお店が出店されれば、ちょっと軽食をとったりドリンクを飲んだりして、過ごせるかと思いました。ホールを作るとしたらホールの一環に、今現在、親子ふれあいサロンがありますが、確かにできた当時はとても保護者も喜んでもらえましたが、スペースが小さいです。沼津市や三島市は柿田川のサントムーンにできているのですが、とてもスペースが広くて、赤ちゃんが遊べるスペースと2, 3歳児、活発な子どもが遊べるようなスペース、区切って遊べるようになっていきます。お母さんたちも安心して子どもたちを連れて遊べる。さらにかわいい、きれいなおもちゃも置いてあって、子どもたちも楽しめる。そして子育て支援で一時預かりもしていて、どうしても小さいお子さんがいるとゆっくりお買い物ができないので、一時預かりを1, 2時間預けて、1時間500~800円の幅で、どの市もしていると思いますが、そうやって預けてちょっと買い物もできる。そういうところが町の中心部にあれば、子育て家庭も利用しやすいのではないかなと思いました。

(委員)

妄想というところに戻って、勝手なことを言ってしまうのですが、公共なのか民間なのかグレーですが、屋上を開閉式のドームにして、そこで空を見上げられる施設。そこが例えば緑地帯、公園になっていたり、温泉があったり、足湯があったりして、天気の良い日は夜星の瞬きを見上げながら そういった温泉に浸かる。あるいは天体観測ができたり、そういった施設は非常に面白いのではないかと思います。ちょっと現実に戻りますと、市役所の関連部署がホールというか建物に入ってもいいのかと。もったいないという方もいると思いますが、合理性から言えば、市役所の関連部署ないしは、たとえば社団法人ですか、各種団体の事務局、こういったものが入るとホールや図書館と連動しやすいのではないかと思います。また周辺施設に関しては、市の振興公社で電気自動車の充電施設を増やそうというアイデアがありまして、そういった充電施設があったり、あるいは自然エネルギーを利用した何か、これは年数が経つにつれて、非常にトレンドも変わってきますので何かとしか言いようがないのですが、そういった時代とともに歩むような施設がほしいと思います。

(委員)

この施設、当初のコンセプトで多様な活動に対応できる、汎用性の高い施設にするということで、私は基本的にはホール、図書館、これをメインとしまして、各種大小の会議室が何点か必要だと思っています。いま委員もおっしゃっていましたが、市役所の経済関係の部

署、あるいは関係団体、こういう事務所も一緒に入りますと、この近くに官公庁が集まった形で、一つで事業活動が出来るという部分もございますので効率的かなと思いますが、あの敷地の広さからどこまで入れるかというところだと思います。

(委員)

先日、泉へ行く機会がありまして、私費でやっている高齢者の方々が集まる場所を拝見してきました。そこに行くとき高齢者の方が20人ほど集まっていたのですが、例えば自分の特技である絵を教えたり、そこに集まってきている方々がみなさんで楽しむというのか、そういう場所を拝見してきました。今回この場所というのは市民が集う場というふうなことをうたっていますので、できればですが、高齢者、子どもたちでも構わないですが、集まれるサロンみたいなところができれば良いのかなと思います。何かをするというのではなく、そこで集まってきた人たちが自分たちで考えて運営していく。どんなことでもいいと思います。そういう場を与えることによって、今熱海は高齢化率が42%で非常に多いです。この方々が家に閉じこもって、たとえば病院を通過してばかりいるというのは、市の財政にも非常に負担が大きいです。それよりも、こういうところに出てきて元気な高齢者になっていただくということになれば、多少なりとも市の財政を圧迫しているところも改良できるだろうし、そういうところを作ったらどうかと思いました。先ほどもう1つ言われた子どもたちの件ですが、子どもたちの学童保育。今各小学校でやっています。それも見ていく人たちにとっては、地区によって非常に大変なところもあるのですが、時間的な制約もあります。そういうところも含めて、昼間のうちは小さい子どもさんたちが集まれるようなもの、児童たちが集まれる場所というのがいいかと。また夕方から夜にかけてはもう少し大きい子、児童たちが集まれる場所とそういうような多機能なサロンのようなものができるかと活用できていいかと思いました。

(委員)

同じようなことになってしまいますが、先ほど委員がおっしゃっていた、私も皆さんの意見を聞きながら、ふとここへ思いついたのが屋上に全天候型、やはりドームとは言わないまでも、一応そういう施設を作って、その部屋の隅にでも小さな子どもさんたちがちょっと休憩したり、ちょっとお休みできる。そしてまた全天候型ですから、天気の良いときは全部あけて。雨降りのときも使えるように。芝生の中で遊べるように。保育園はみんな遊び場所がなくて、海岸のわざわざ遠いところへ、みんな行列を作って遊びに行きます。ですからこんな一番行きやすいところがあれば、屋上にあがって行って、天気の良い時はオープンして、雨の日もそこで遊べる。そして図書館に行って本を借りてその部屋の隅で読むことができます。また年配の方もそういうことが出来ると思います。それ委員がちょうど先におっしゃっていましたが、私も同じことを考えました。予算の都合もあると思いますが、それもありがたかなと思いました。あとはオープン施設。1階部分でもどこでも、オープン施設があつて、ちょっとした椅子、販売機が置いてあれば。図書館のアンケート見ても、なかなか場所を取りにくいとかいろいろそういう問題が書いてあります。ですからこういうところに少しオープン施設みたいなものがあつて、もしコンサートとか舞台があるときは、熱海のお店が販売するようにしてもいいですが、オープン施設の中に販売機みたいなものが常設してあつて、気楽にみなさんが休憩できる場所もありがたかなと思います。

(花井委員長)

いろいろな意見を出していただきまして、こちらも想像しなかった、屋上というのがテーマになっていますし、ほとんど頂いた意見が運営、PFIになるかどうかは別にしても、運営ではすごく連携性のできるものかなと私は思いました。これを少し頂いて、まとめるときに一つの参考にしたいと思えますし、民間の話も出ていましたが、少し市役所の方から説明していただきますがフルでこの土地を使った場合に、こういうことも考えられるという、空きスペースに民間機能が入れるのではないかということ、みなさんの手元にある資料で説明をしていただいてご意見聞きたいと思えます。

(事務局)

それでは、建築可能な建物の規模についてご説明いたします。本日お配りした資料の2枚目と3枚目、配置図とパースがありますので参考にしてください。まず配置図をご覧ください。左の上に、敷地の制限という表示をしております。ここで用語について簡単にご説明いたします。1つめ、用途地域という言葉がございます。用途地域とは、土地をどのような用途にどの程度利用すべきか等を定めまして、用途の違う建築物の混在を防ぐことを目的としております。いくつか指定がありますが、この計画地につきましては商業地域というものと近隣商業地域、2つにまたがっております。市としての商業、その他の業務の利便を図る地域とされております。その下の建蔽率でございますが、建蔽率とは敷地面積に対する建築面積の割合でございます。その下、容積率は敷地面積に対する延べ床面積、各階の床面積の合計の割合でございます。今回の敷地面積は3,100㎡程度でございます。形状は北東方向に不整形であることから、建物をこのような形で想定しております。これで建築面積は1,860㎡でございます。この案の建蔽率は約60%でございます。法令上は80%まで可能であります。不整形な土地であること及び周辺整備を考慮いたしますと60%程度が妥当であると考えております。次に延べ床面積でございます。法令上の制限は400%でございます、単純計算で3,100㎡×4倍。従いまして12,400㎡の床面積の建築物を建てるのが可能でございます。この12,400㎡を単純に建築面積1,860㎡で割りますと6.66㎡になりますが、上層部の床面積を調整すれば、7階までの建築は可能ということでございます。そこで階層別の用途を仮定いたしました。何階に何が入るかは別といたしまして、今までのご意見や市民アンケートの結果から市民ホール、展示スペース、図書館、児童館、会議室等の公共施設、及びカフェですとか、カルチャースクール、塾等の一部民間施設を想定しております。この施設で4階分必要ではないかと考えております。あとは残りのですね、5、6、7階、この3フロアに民間施設を建設することが可能でございます。例としまして、ホテルや病院、共同住宅等を想定いたしました。パースをご覧くださいとわかりやすいと思えますが、下から4層目までに、今まで言っていた公共施設、一部民間施設を含みますが、今までお話が出ていた4層まで。その上の白く塗りつぶしてありますが3層部分に民間施設が誘致可能なフロアがあるというふうに考えております。面積で言いますと白い部分の床面積の合計は約5,000㎡でございますので、坪にして約1,500坪と余剰部分がございます。先ほど説明いたしました用途地域の中で商業系の規制が一番ゆるいところでございますので、一部の例外を除き、ほとんど用途のものは建築が可能であるということでございます。以

上を参考に、白く塗りつぶした余剰の部分に何か誘致したいもの、または必要ではないかと思われる民間施設についてご意見を伺いたいと思っております。

(花井委員長)

今説明ありましたように、ここに民間機能というところで今例としてはホテル、病院、共同住宅と書いていただいておりますが、それ以外にもすでに出ているかもしれませんが、その中で今改めてこの資料をご覧になって、思いつくままでいいですが、こんなのがあったらなどご意見あればお願いします。

(委員)

いわゆる人口減少、少子化の時代に入ってくるということで、子どものための施設がほしいということで、児童館は先ほど副委員長のいうように欲しいかなというのがあります。それから総務省の調査によりますと高齢者の趣味娯楽は1位が園芸、庭いじり、ガーデニングだそうです。2位は趣味としての読書ということでもありますので、これ図書館機能と合わせた形の中で、これらの講座だとかコーナーを設けるだとか別途に対応することができればよろしいのかなと。子どもと高齢者ということ、ちょっと考え方を発表させていただきました。

(委員)

私は先ほど申し上げたところで、民間がやってもいいし公共でやってもいいようなお話をさせていただいたので、それ以外はこちらに書かれているようなホテル・病院・共同住宅、民間の方々のその自分たちがそこにいて採算が合うか合わないかどうかそういうのに左右されると思うので、他にこういうものがあるというのを教えていただくとありがたいなと思います。

(委員)

熱海市は正直言って若い人が働く場が少ないです。そういった意味で民間施設が入ることによって、働く場も少しは増えるのではないかと考えております。あったらいいなというのがやはり児童館とかカルチャースクール。子どもと参加できるようなものだったり、若いお母さんたちもちょっと勉強できるようなものがあったらいいなと思いました。

(委員)

ここの上の3階層を民間でという話は、ここの今日の資料を見て初めて私は気がついたので、そんな計画があったのかと。どういうふうに考えていいか分からないというのは、図書館とかもしくはホールとか大きさがまるで話が出ていなくて、もしかしたら4階じゃなくて5階までいくかもしれないのかと。図書館の広さは、一体どれだけ。どうせ作るのですからよりよい図書館、よりよいホールと思ったときに、その大きさもまだ出ていないのに、この上の民間の話をするのは、私はさっぱりどう考えていいのか分かりません。

(花井委員長)

最大の規模として考えたら、こういうことだという資料です。そこでまず面積よりは機能としてどういうものが、大小あるかもしれないですが、図書館とホールという機能、今児童館もあった方がいいという機能、先導してもらって出てきていますので、じゃあこれにもっと考えられるような、これ以上機能いらぬというのならそれでもいいと思いますし、委員が言っていたようにドームがあったらどうかという発想でもいいのですが、機能

として何か、ここにもっともっと建物がよくなるようなアイデアがありましたら出していただければと思います。

(委員)

今までもお話は出ていたと思います。上に行くか下に行くか分かりません。その位置も分かりませんが、第1回目に出たときに、観光地熱海としてのアイデアが出た時がありました。例えば大きなハイビジョンのテレビに熱海の四季を映したものを、例えばボタンを押すと梅園は春ですけども、秋はこうですといった季節を感じる。熱海は季節、自然が豊かなのでそのような話が出た時もありましたし、坂のまちっというのもありましたし、熱海の観光的なものを用意したものがたとえば1階に入るとか、話は前に出ましたのでそれはすごく良いなと思っていました。それが上にいくということはないので、ちょっと他のことはあまり考えられませんが、さきほど言ったことでよければ、地域交流センターのような函南町の図書館ところには、一緒に併設されていますが、先ほど私が沼津市のところにありますといったような子どもからお年寄りまで、くつろげる空間、室内公園。もしかしたらそういうのもこの上に入っているのかなと思います。

(委員)

これも先ほどの資料10で網羅されているので、特別な新しいものはないですが、入って頂ける企業さんが有れば、ぜひウェルカムだと思いますが、逆に市民アンケートで実はあの土地はどんな使い方がいいですかというようなことが自由意見欄で、こんな時期にあれですが、葬祭場という自由意見が実はありました。ホールとか、今この場面では一般的になっていることですが、実は建物がでると、全くそんなものは望んでいない、全く別の機能、何も建てないで更地にしておいてくれ、という意見が当然あるなかで、葬祭場というのはパッと目についてしまったのですが、来てほしくないなというような施設、民間企業さんも念頭にしておいた方が後でショックは少ないのかなという気がしました。

(委員)

全くの思いつきですが、みんなが集まる、人を集めるためにもどんなものがあつたらいいかと思ったときに、食に関する施設はものすごく集客力があると思います。B級グルメが流行っているとか、食べ物やはり人を呼ぶと思います。余剰のフロアがあるのであればフードコートのような食べ物が食べられる場所があると良いかなと思います。あまり堅苦しいものでなくて集合しているというような印象ですが、できれば地元のお店にたくさん入ってもらえれば、さらによりよい。観光の方も行ってみようとしたいと思いますし、地元の方もお昼食べてみようとという形で食べるために来て、ついでに図書館に行くとかも狙えるのかなと思いました。あともう一つ、ずいぶん話に出ているカフェについて図書館の職員としての意見ですが、カフェがもし中に機能としていたら、できれば1階とか1番人が通るところに置くのがやはりいいのかなと思います。みなさん武雄市の図書館の印象が強いかと思いますが、本を読みながらコーヒーを飲むみたいなオシャレな感じがすごく出回っていますが、そういう感じを持ちたいのであれば、図書館にはそのカフェのコーヒーを持ち込めるといえるようにすれば、図書館の中で優雅にコーヒーを飲みながら読書。カフェの機能としてはやはり皆さんが通るエントランスみたいなのところがないと、いろいろな施設の人が共通して使えませんので、やはりカフェとしては図書館の外、1番人

の多いところに置くべきじゃないのかなというふうに図書館の職員としては考えております。

(委員)

今回このシュミレーションを見て、7階までできると。他の施設があるので、若干景色が遮られる場所もあると思いますが、ある程度、景色がいいという感じにはなると思うので、カフェもありかと思いますが、基本的にはこのあたりに関しては、民間のノウハウで幅広く募集していったなかで選定していく方がいいのかなと思います。

(委員)

テーマになっていた市民が学ぶとか、遊ぶ、つながるということを考えると、温泉施設もいいのかと思います。基本的には防災のことを考えても空地が足りないような気がしますので、あまり必要ないのではないかと。小規模なテナント程度でいいのではないかと。この場所にはふさわしいのではないかと思います。

(委員)

この図を見てイメージすると、この中にもありますが、カルチャースクール、塾等ということですが、今、有名な大学がサテライトキャンパスをもつというのが非常に多い。立命館が東京にサテライトキャンパスを持つだとか、法政大学が静岡駅前にサテライトキャンパスを置くとか。大学院の話になってきますが、高齢化が進んでいるこの社会の中で、立教大学がセカンドステージ大学院を開講して、ご年配の方が興味を持って学ばれる場があるという話も聞きますので、そういったものを誘致できればおもしろいのかなと。また大学院に限らず 大学のサテライトキャンパスを誘致することによって大学の進学と共に、地方を離れてしまう人、首都圏への流出を防げるのではないかと感じます。あと熱海のへそに、温泉資料館をつくるという話も昔ありました。これは温泉法とか勉強していると温泉の熱海が発祥であるとか、いろんなものにぶつかりますので、温泉というのを全国にどう発信していくかということ考えると資料館ないし温泉の研究所を誘致するのも一つかなと思います。

(委員)

4階から上は民間施設ということ、ショックが大きいです。皆さんもそうだったと思いますが、その部分をたとえば1階を減らして、5階部分でもそれを使えないものでしょうか。例えば、先ほどから子どもさんのことを話している方おりますが、ここに例えばこの5階部分をつぶして民間施設に貸し出さないで、今子育ての方のために一生懸命使ってみたり、そういった施設を作るというのも良いかと思います。今、いきいきプラザに子育て支援がありますが、あちらのものをこちらの階に移して、あちらの防災なら防災に移してもいいと思います。子どもは明るく美しいところで遊ばせたいと思います。ですから、無理にいきいきプラザに子どもの遊び場を作ることなく、こちらのきれいなほうに子どもたちの子育て支援所にして遊ぶところをつくってあげて、遊ぶ場をあれしてもいいと思います。あと1階部分は市民の方も入りやすく、観光客の方も1階、2階ぐらいなら入りやすいので、熱海市の会合のときも申しましたけど、お宮の松の朽木を飾ったり、歴史資料館、そういうところが入りやすい場所にあれば観光客の方もすっと入ると思います。これがエレベーターですと上の方まで上がるっていうのもなかなか入る気にならないと思います。

ですから入りやすい1階とかエントランスに飾ってもいいと思います。それで5, 6, 7階を少しでもホールとか他の部分に広く使えるような形でやったらどうかと思います。民間施設のところにどれが入ろうなんて、今ちょっとびっくりした状態で、どれが入ってほしい何が入ってほしいなんていうよりも、それを1階部分でも減らして市民のための何か使い方をしてほしいと思います。

(花井委員長)

そうですね。これが絶対7階というわけではなくて、マックスでいったらここぐらいまでいくので、例えばおっしゃるようにホールを1,000人呼ぶとなればホールの大きさが占めますから、7階を何とかしなければならぬ。そういうふうになれば部屋が余るし、そういうところも踏まえながら、例えば他にもこういう機能があればいいなというものがあればいいし、1回は全部考えといて、ただし最終的な計画の中ではもしかしたら断念しなければいけない。それは1にホールを考える、図書館を考えるようになるかもしれないと、今少し意見を頂戴できるのかなと思いますが、そういうふうに踏まえていると思います。

(委員)

民間施設というものを私が捉えるにはPFIをやったときに、民間の力を借りて行うというふうに考えています。その中で、民間で出てきてくれる方にとって、民間の施設というものをどういうふうにするのかと捉えて私は意見を言わせてもらいますが、これがいかどうかは別にして、今いろいろなところを見ると、昔熱海にも水族館という話がありました。埋立地のところに水族館が断念したってことで、その当時できていけばなという思いが私にはあります。その中で観光客の方に、「熱海は非常に良くなったけど行ってみたいところがないよ」と非常によく聞きます。タクシーをやっていますので、お客さんの最前線にいると思っています。その中で確かに市民が集うところということで、先ほど市民ホールとか、そういうことはお話をさせていただきました。それと別にまた民間の活力を得ようとした場合に、こここのところにそういう方々が行ける様な場所ということで、水族館なんか面白いのかなと思います。というのは、江ノ島水族館もくらげやなにかで非常にお客さんが多いです。上の方で作る場合にこういう趣向を凝らしたなかでやっていくと集客力もあると思います。それともう一つは委員からお話があった全天候型のドームという話からプラネタリウムですね。今は非常にプラネタリウムも素晴らしいものできています。そんなところを民間の力を借りながらやっていく。そうするとここの建物も、皆さんが話しているように、市の単体でやったときには例えば市民ホールを作ったら、多機能のものは無理だよというところも、そういう力を借りることによって両方ともできるのであれば、活用していくというのもひとつではないかと思います。ですからその点については、ある程度収益性のあるものも考えて行かなければならないということで、ここにはホテルとか病院とか共同住宅、マンション、こういうものが書いてありますが、なかなか市民ホールなり、一般のいろんな人たちが集まるところにマンションとか病院というのはどうなのかなということがありまして、逆に言うと観光のものに特化したもの。そういうものが出来ればいいのかなと思いました。

① 施設用途

《附帯施設について》

(花井委員長)

これはまだ仮説の段階ですので、ご意見を参考にしていきたいと思いますが、時間があと20分弱になってきましたが、先ほど出ておりました駐車場の件を少し議論して頂きたいと思います。前回も説明がありましたが、今回の敷地内に作ったり地下にしたら、費用はかけられるけど台数が少ないと。それで今度はタワー式にすると安いということ。いろいろあるとは思いますが、それを踏まえて市役所の敷地と一体で対応していくのはどうかという話も出ていましたけれども、そのあたりのご意見お聞かせください。

(委員)

委員長おっしゃっていたように、地下式と機械式あります。それ前提で検討されていましたが、いただいた資料に市役所敷地の一体化で対応することの是非についての項目がありましたので考えてみました。図書館や展示ホール、そのあたりについてはおそらく機械式で十分対応できると思います。ただ集会の施設、音楽ホール。この場合、参加者の意図でなくて主催者の意図で行事が一斉に終わります。すると何百人の方が同時に同じ行動をとるわけです。実は私の住まいが機械式の駐車場で、計りましたら1台が出るのに機械が回るだけで2分半以上、位置によっては3分かかりました。それで3分計ってタワーが回って出庫するとき、前のおりも相当混んでいますので1台出庫に3分とすると、たとえば音楽コンサートが終わって10番目にその列に並んだ人は車が出るのは30分ほどになります。20番目に並んだ人は1時間後。それがもっと早く1分で終わったとしてもやはり100人、300人規模の集会をして50台くらいの車がそこを利用した場合、最後に出る車、あとそのほかの施設を使っている車を考えますと、機械式っていうのはちょっと難しいのかなと。そういう意味では今市役所で取り壊している、消防庁舎も含めた敷地と一体で、自走式の立体の駐車場、市役所の横の2階建て。あれは2階建てでしたけれども、ああいう形で、自分で走って出られるようなものを、3階建てとか4階建ての駐車場があつたらいいのではないかなと思いました。近隣のこういう音楽ホールとか集会施設の駐車場を見るとだいたいどこでもそういう形式のようです。一番新しいものですと沼津の県営施設ですけどもそこも自走式の多層の駐車場です。小田原市も栄町の立体をだいたいそういうところでは使っているようですが、平土間で置けない面積のところはいいですが、そうではないのでどうしても立体になろうかと思いますが、機械式のエレベーターのようなタイプ、タワーのタイプみたいなようなものは難しいのではないかなという印象を持っています。

(委員)

読み聞かせの会で独自にアンケートとりましたが、駐車場に関する意見がとても多かったです。特に駐車場に関してコメントを求めたわけではありませんでしたが、新しい図書館にどんな思いがあるのかと聞いたときに、駐車場の問題が数多く出てきています。今の図書館はそれでも下も入れて平日ですと10台くらい置きましたかね。それでも置けないと聞きました。ここを見ましたら、市民ホールも入って、他の機能も入るのに地下の28台はなんですが、この機械式はとても無理だと思いました。静岡市の駅のところもタク

シーのところも機械式でしたし、いろいろなところで使われていますが、機械式は使いたくないというのが印象です。地下のほうは静岡も大ホールの地下に駐車場の方がありますが、そこは結構広いので。富士の図書館は駐車場もあります。機械式なら地下。普段使うには良いと思いますが、市民ホールがあった場合は全く無理かなと思います。今お話があったとおり自走式というのですか。せめてそれが傍にあることが必須だなと思っています。

(委員)

私も利用者として経験していますが、南足柄市の文化会館で、子どものエレクトーンの発表会のときに、その施設には地下のところは10数台しか置けなく、それなのに利用者がたくさんいるので近くの市役所なのか、民間の施設にこっそり止めたり、あとは駅前に停めるなどして、みんな工夫していますが、やはりそういった大きいホールがあった場合は駐車場をきっちり設備していただかないと、利用する人の立場にとって、利用しにくいホールになってしまうので自走、多層の駐車場がどこかに設けられれば、しかもホールに近い場所にあったほうが利用者にとってやさしいと思います。

(委員)

駐車場の件に関しましては、今回の熱海フォーラムのコンセプトの中に、市民参画・市民が集う場づくりと、銘打っています。これを考えますと、熱海全体のことをもう1回考えなきゃいけないと。それには熱海の成り立ちをもう一度考えるべきであると思います。他の市町と違う点を考えました。そうすると熱海が市政80周年にもうすぐ近づくのですが、泉、伊豆山、多賀、網代、初島とよく言われますが、熱海の中央部以外に、例えば観光団体が6団体あります、非常に地域、地域がたっているというか、さまざまな地域性があります。その中で人口の分布も考えなければいけないですが、おそらく中心部以外の方々の交通手段を考えると、きわめて車が多いのではないかと。その中でこの熱海市自体がほとんど丘陵地であって、山の手の住宅も多くて、上多賀の自然郷を例にとれば、バスを乗り継いで、鉄道の駅もそう近くにありませんし、そうしたことで車の移動になります。そうしたことで、車をフォーラムの近くに停めると一等地に大きな駐車場があるのもいかなものかという話も出ると思います。ですから駐車場の話だけではなくて、いわゆる泉、伊豆山、多賀、網代、初島の方が熱海市民として、来るアクセスを考えてあげないといけないなど。一番いいのは駐車場だと思っています。地下駐車場はコストがかかるという話ありますけども、なにせちょっと語弊があるがあるかもしれないですけども、中央部以外の方は比較的ひがみやすい。そこをケアしてあげないと、本来のコンセプトである市民が集う場づくりから外れるのではないかなと強く思っています。なにも私が多賀に住んでいるからというわけではないですが。今日南熱海の方もいらっしゃると思うので、共感を持っていただけたらと思います。

(委員)

駐車場は、やはり公共施設にはつきものということで。絶対的にここの敷地の中では十分ではないということでもありますので、先ほど委員からお話がありましたけど、市役所もとの複合施設の立体的な駐車場に整備して確保しなければならないと思います。そうしないと市民のみなさんも利用しますし、来るのには車で来まして、荷物があれば楽器があったり展示物があったり。必ず車で来ますので、対応の中では必要だと思いますし、観光

客にも対応できるような駐車スペースを確保しなければならないと思います。

(花井委員長)

では総合的に市役所の敷地を使うという形で、みなさんこれはご意見一致というふうに見てもよろしいですね。これはまずまとめておいた方がいいかと思いますので、その方が望ましいということできたいと思います。

② 公民連携の手法

(花井委員長)

次にPFIの勉強会をしましたが、民間の資金や運営ですね、そのあたりを使ったPFI。ただ今回私たちが言っているPFIというのは、前回の勉強会でありましたように、これまでのPFIとは違う、どちらかという熱海市民の方が主になってやっていくPFIを模索してみたらどうだろうかということが、前回あったと思いますが、この導入、先ほど何回かPFIという言葉が出ていますが、この導入について、少しご意見いただければと思います。

(委員)

PFIの資料を頂きまして、今まではPFIの場合、そのお金が地域外に出てしまうということで新しいPFIの経営は地域内でお金が循環するとありますが、私が少し心配しているのは、当然施設整備には税金の投入、それから補助金、交付税等の投入だとか、収入としては使用料という形の中で賄っていくと思いますが、PFIで民間が運営していったときに、当然赤字になっては行き詰ってしまいますので、そうなりますと今度、市のほうの委託料だとか、あるいは使用料をもっとあげなくてはならないということで、市民の皆さんが逆に使い勝手が悪くなったと。使用料が高い分、使えないとならないのか、これがちょっと心配しているところです。

(花井委員長)

少しアドバイザーである天米さんにそのあたりを説明していただけますか。

(天米様)

今、懸念されている内容ですと、従来、行政が施設を整備する場合には、おそらく長期の目線のライフサイクルコストとか、建物の建築コストというところの見方をしていますが、施設を使つての収益という目線はほとんどなかった時代です。ところが今トレンドとしては、人が減っていく、経済循環が弱くなっていくなかで、公共施設を全て税金だけで賄おう時代は終わりになるだろうと想定されています。そういうなかで市民の皆さん、あるいは市外の皆さんがどうやってそこを受益と負担を考えながらしていくかという目線で考えると、市場原理がそこに入らざるを得なくなる。多少そういう傾向が生まれる可能性はあると思います。ですので、どういう内容、機能の施設にするかというのが非常に大事だと思います。ただ単に作れば良いという話ではないと思います。

(委員)

そういう観点から1回目からお話しているのは、この後の管理運営がいかにあるべきか、そのあたりを定めて、施設がこうあるべきだというふうに思います。

(委員)

仮にPFIであれ、例えば建設手法とか運営手法がどのような形になるのであれ、前回天米さんがレクチャーしてくれたとおり、建設から維持管理あるいは運営の過程まで、あるいは雇用に関しても地元企業だとか市民が加わることができるような配慮をお願いしたいと思います。これはまだPFIについての知識が乏しいので、何とも言えないですが、単純明快をお願いしたいと思います。建設業の視点として先ほど市場原理の話が出ましたが、いま建設業は全国的にコストが上昇しています。人件費、労務費、それから資材、非常に上昇しています。俗に言われるのはやはり東北の復興だとか、オリンピックに対する需要が非常に増えているということですが、現実に入札が不調、誰も応募する人がいないとか、いわゆる設計に対して市場の価格が合わないの、これではできないということが起こっています。ですからPFIについても性能要求ですか、その望むべきものに対して、自分たちが加わるかどうかということ、誰も参加しないという事象も起きる可能性もあるかもしれないので、そういったところも考えて、今回の熱海フォーラムの設計というのかな、構想していかなければいけないのかなという感想をもちました。

(委員)

前回勉強会のときに参加していなかったの、資料を見るだけで全然知識がないのですが、委員の話や天米さんの話を聞いて、もし民間を熱海市の人でやっていくなら勉強会をしっかりと、確実に、担う人も不安にならないような勉強会を随時行っていかなければならないと思いました。

(委員)

複合施設そのものをPFIで建てるということですが、図書館が入ることになった場合、図書館自体が図書館法という法律がありまして、第17条に「公立図書館は入館料その他図書館資料の利用に対するいかなる対価を徴収してはならない」という無料の原則がありますので、収入は出ない図書館、利益を生むことはできません。民間になった場合に、どこでそこが運営して利益を上げる事ができるのか。PFIではないですが、指定管理とか民営化というのは、図書館はなっていますが、それはいろいろな動きがあって情報がたくさん入っていますので、指定管理と同じような形にPFIになると、建て方ですが、運営のほうも多分そうなるということになれば、そこは非常に不安がいっぱいのところ、それはどうなるのかと心配なところ、というのは人件費を削るしかないと言われて、請け負った中から人件費を抑えて業者に利益が上がると聞いています。そうなりますと、市役所の職員ではない、請け負った会社が募集した人たちはみんな安い給料で働かざるを得ない。大切な専門職員、司書たちもちゃんとした給料がもらえないのではないか、というふうに聞いています。そこが非常に気がかりな点です。

(花井委員長)

今の補足というか、17条についてですけど、私も図書館の中にいますから17条の言っているのは、資料の貸し出しをするときに有料であってはいけないという項目ですから、図書館を経営する中で会議室を有料にしたりとか有料席を作ったりとか、そういうのにはあたらないです。ですから他の図書館ではそういうことをやっているところはたくさんあります。ただ収益は出ないと思います。おっしゃる通りで。解釈は少し私とは違うかなと思いましたが17条の解釈、どこも今までずっとそう思っていらっしゃった方もいると思

いますが、現在の図書館法の中での解釈では、ほとんどのところが有料スペースをもって
いますし、それによって指定管理とか、それを複合的にやるから収益が出たりとか、赤に
なってもトントンの赤になったり、そういう図書館もありますので、あえて17条を持っ
てくるのではなくて、おっしゃっているようにワーキングプアを出さないとかをそういう
ところをお願いしていかれた方が私はいいと思います。

(委員)

市民アンケートの結果では、確かに公設公営を望む声ありました。明確に市が直営でな
ければダメという意見がありました。ただ知らない事業手法に取り組むことへの不安だど
か、公平性が担保されないのではないかという懸念だと思います。そのあたりをクリアで
できれば市民の意見を十分に反映して、市民の関心が行き届くような体制を作ることを担保
したうえで、先ほどおっしゃっていましたが、勉強会などを開いて理解していただく工夫
をしたうえであれば、民間の資本、それからノウハウは積極的に取り入れるべきかなと思
っております。

(委員)

施設全体で考えれば、事業方式というのはPFIという新しい手法あり得るのではない
かと個人的には印象としては思うのですが、ただ私は図書館の職員なので図書館の運営と
いうことに関して、意見を述べさせていただくと、図書館はやはり特殊な施設といいま
すか、やっている内容もなかなか分かりづらいのですが、本の単純な貸し借りだけではご
ざいません。特に言われるのが、郷土資料と言われる地域に関する資料を集めたり、後世に
伝えていくというのがすごく大きな仕事になります。それを民間の会社に任せるとい
うことは、それを安定的に、継続的にやれるのかという疑問が常に付きまといま
す。あともう一つ、委員とも関わるのですが、子どもの読書活動を盛んにしようとい
うことが今言われています。熱海だけではなくて、静岡県ですとか、日本中でや
っていることですが、それも安定的に継続的に、そういう利益を全く生まない活
動を続けるのが、民間の会社にお任せできるのか。キーワードは安定的に継続
的にという言葉ですが、PFIもそうですが民間に任せるとい
うのが大丈夫なのか、というのが図書館業界で言われているところです。
2年近く前になりますが、新図書館構想を作ったときも委員の方々からは直営
がいいとい
いますか、民間に任せるとい
うのについて、賛成意見は出て
いなかったとい
うのを報告さ
せて頂きます。

(委員)

民間のノウハウ取り入れるということは施設全体としての魅力が上がる可能性もある
ので可能な限り、そういう手法等を探るべきだと思っています。

(委員)

参考事例で前回の勉強会で見せていただいたものに関して、この規模と比べたら全然比
べものにならないのでPFIうまくいっているのではないかという感じが少しあって、非
常に土地の面積と立地条件とホールと図書館を入れるという事で、利益を出すのが
すごく難しい施設、建物になるのではないかという気がしていて、そこがすごく不安
です。あと熱海市民によるPFIっていうお話がありましたけれど、やはりそこまで能力
を上げてい
かなくては
いけないので、それは時間も労力も
すごく。もし市民の方でもいらっ
しゃるな

ら発掘したいなと思います。そのあたりが不安なところです。

(委員)

この件は市川さんとこの前個別にお話させて頂いて、やはり第1回の会議で五星さんが来ていらっしゃると思いますので、決まっていることについてコメントするというのは非常に心苦しいところがあるので、あえてコメントは今日はしないでおきます。

(委員)

このPFIのことでコストダウンを実現して、そして事業方式、維持管理、運営、活用それから雇用、それまでにまとまってできるということでしたら、民間資金の使用も良いと思います。ですが、せっかく熱海の人がやる工事に対して、熱海市民の民間の工事がPFIでは全然使われないことも出てくるのではないかと思います。やはり熱海市の業務ですから、できれば少しでも熱海市のそういうお店やそういうところの業者や使いたいと思いますけども、PFIでコストダウンを優先してそれで事業方式を決めてしまえば、この会社に全部一任ということですから、熱海の業者は使われないのではないかと懸念もございます。

(委員)

このPFIというのは私も先ほど意見で言わせてもらいましたが難しいと思います。まだまだ自分なりに理解は全てしていません。ただ最初の説明の中で建設コスト、それからランニングコストを平準化する。そうすると市の負担というのは毎年平準化することによって楽になると言ったら申し訳ないですが、そういう形になるのかと思います。ここで皆さんがいろいろなことを望むものをしていくためには、この手法もやるのもひとつありかなって感じはします。ただ今全てのことが理解できていませんので、もう少しこのことについては煮詰めていきたいということと、先ほど皆さんがお話していますように熱海方式という言葉は出てきています。何がどれをとったら具体的に熱海方式になるのか、つめていった方がいいのかなという気はしました。

(花井委員長)

今、熱海方式というのは、また勉強会というのもありました。少し継続して次のことになるかもしれませんが、またそういう資料なり勉強会ができればという形で、どちらにするというのは、この場では決めかねないかなと思います。少し前に進めるという意見もありますので、前に進めながらもっと議論したいと思います。

② その他の施設整備

(花井委員長)

あと一つ議論して頂きたいことがあります。インフラ、道路のことです。歩道ということですが、今狭いということが出ていますが、拡幅するのか。道路が6mという資料ですが、これに関しても拡幅した方がいいのか歩道について意見聞かせて頂きたいと思います。

(委員)

問題提起の意味も含めてですけど、私は歩道をつけて、本線通り水口線に右折レーンをつけて線形も改良すべきだと思っています。というのは、当該地が狭くなったとしても、向かい側には順番でいうとおそらく第2庁舎、第3庁舎、福祉センター、いきいきプラザ

の順番で、10年から30年で建て替えなければならないと思います。それを考えますと、極端な場合、今建ったばかりの庁舎ですがこれも30年から50年で建て替えますので、その建て替え、あるいは御殿稲荷に移って頂くことも含めて、この2つの区画を一体として考えて、本線通り水口線もその空間の一部として捉えて。あの虎ノ門ヒルズもありましたが、いろいろな手法があると思うので、そういうのを使いながらあの敷地だけではなくて、市役所一体の50年間でいろんな機能をどうローテーションしていくか、それを考えながら、今回はそのスタートとして考えるべきと思っています。

(委員)

今の話に全く同感で、周辺整備はとても大事なことだと思います。来宮神社の宮司さんに伺いましたが、来宮駅に向かうこの目抜き通りの坂道。これは熱海箱根峠線と書いてありますが熱海函南線、この県道です。この県道がかつて宮坂と呼ばれていたそうです。これはおそらく参道ですよ、その前の町がいわゆる門前町だとか、そういったところで栄えていたようなお話を聞きました。坂だったので、なんとも言えないというお話でした。例えば伊勢神宮、お陰横丁のように神社を起点にして賑わいがあります。ここの県道に関しては、住宅・建物が密集していてセットバックも出来ないのも、皆さん歩いて楽しむ事が出来ない。この間、上宿町の用地を見たときに、委員にお話しいただいたのですが、この裏はすぐ温泉寺だと。考えてみるとそこに湯前神社があって来宮神社に通じる裏小道があります。そういったアクセス、ルート、回遊といったところを、もう少し意識を持って道づくりをしていただければ、なにも大きな道を拡張するとかではなくてね、非常に歩道、歩くということに関しては、観光になると思います。宮司さんはこうも言われていました。来宮神社から梅園に通じる線路の山側の道というのも非常にこれから魅力があるのではないかと。梅園というのは非常に来宮神社に近いです。そうしますと、県道も含めて非常に回遊性を持った楽しみが一つ増えるのではないかと。ということで、安全に人が歩ける道づくりというのは、県道以外にも整備をするという視点を行政の方に持っていただいて、フォーラム、点として考えるのではなくて面として考えていただきたい。これをエリアマネジメントというようですが、私たちもそういう視点を持っていかなければならないかなと思いました。

(委員)

なるほどと思うお話ありがとうございました。いろいろな方が集まる場所なので、当然車いすの方、ベビーカーの方、どなたでもお集まりいただきたいと思うので、その方たちにご不便にならないように、通り2台の車いすやベビーカーが通りすがったりできるような、立派な歩道にしていきたいと思いました。それからその神社のお稲荷さん、ちょっとそのままあってほしいなど。

(委員)

熱海箱根峠線ですが、上から降りてきたときに左折右折という形で、今度この施設が出来ますと、かなり量が多くなると思います。そうした場合には、この幅では少し渋滞してしまうのではないかなと思います。そういう中でもうすこし拡張が必要な部分が出てくると思います。一番初めのときにお話ししましたが、やはり緑だとか花だとか、こういうものをこの周辺に配置しながら、歩道はやはりしっかり通していただくということが必要だと

思います。

(委員)

だいたい皆さんと意見は同じですが、ここにあの市民ホールこういうものが出来ると車も人も非常に集まってきます。そんなときに、せっかくこうやって用地的に拡張できるのであれば、この工事をする前に道路についてはきちんと決めて、拡張しておいた方が後からはなかなかできませんので、そんなことでできればいいかなと思っています。

(花井委員長)

では拡張も視野に入れて、委員がおっしゃったように歴史的な側面もふまえて、そこだけではなくて面として検討していくという事でよろしいですか。

《一同 了承》

(花井委員長)

ありがとうございます。今日のところはまとまったところと検討を進めなければいけないところもありますが、次回は基本構想の方にも入っていきますので今日の意見を踏まえて、またみなさんにご提案させて頂きたいと思います。では事務局の方お願いします。

(3) 次回開催予定について

(事務局)

長時間のご議論ありがとうございました。次回に関してですが、次回9月19日金曜日、時間は午後3時から予定しております。場所は本日と同じです。委員長からありましたが、次回はいよいよ基本構想の案をまとめる策定の作業になりますので、よろしくお願ひします。委員の皆様方に、事前に本日まとめた検討内容の物を委員長と調整を図ったうえで、素案ということで事前送付いたしますので、会議の当日までに目を通していただいて、当日議論していただいたうえ、当委員会としての構想案をまとめていこうと思いますので、よろしくお願ひいたします。それでは本日の委員会を終了とさせていただきます。

以上。